

新疆地域に於ける青銅器—初期鉄器時代の開発（一）

王 妙発

（一）はじめに

論述を展開する前にまず、本稿の研究資料について説明をしておく必要がある。2009年、筆者は『試論新疆地区的早期開発』の論文を書いた¹⁾。当時の研究資料は2008年までに公表されたもので、最大限に集めたつもりだが、やはり零細で少ないと言わざるを得なかった。資料に制限された為、検討する年代（時代）は新石器時代までにとどまっていた。

しかし2009年以降、『中国文物地図集新疆分冊』（2012年、以下『文図集』と略す）及び『新疆维吾尔自治区第三次全国文物普查成果集成』（2011年、以下『三普集』と略す）の二冊が出版され、資料面で大きな変化がもたらされた²⁾。

この二冊は20世紀80年代から行なった第二次全国文物全面調査及び本世紀に入ってから行なった第三次全国文物全面調査の成果を纏めたもので、新疆自治区の現在分かっているすべての文物や遺跡を総括した集大成の出版物だと言っても過言ではない。

本稿では、これらの新しい資料に基づき、新疆地域の青銅器—初期鉄器時代の開発状況について検討を加えたいと思う。

いわゆる「初期開発」とは、新疆地域に到達した人類集団の最初の活動を指す。また、ここでいう「初期」とは、明確な文献記録があるまでの「先史時代」となる。関連資料では「旧石器時代—新石器時代—青銅器時代—初期鉄器時代」と表現しているが、実際、中原地域の漢—唐の時代に相当する年代の遺跡と遺物も含まれている（例えばアルタイ市庫爾図墓地）。というのは、新疆は中原地域に比べ文献記録欠如の時期が長かった為、新疆ではこの漢—唐年代（時代）は「先史時代」と表記しても間違いではないと考えられるからである。

新疆地域は地理環境がかなり特徴的である。南部、西部及び北部に、それぞれ高い山脈が聳え立っている。ほぼ真ん中に東西方向に伸びる天山山脈によって新疆地域は南北二つに分けられており、それによってできた南北二つの盆地は、いずれも巨大砂漠となっている。概ね、新疆全体を一つの、あるいは二つのつながった密閉地域であると認識してもよいだろう。

普通、高い山地や砂漠は、初期人類は居住地としては選ばないだろうと考えられる。また、

1) 拙著：「試論新疆地区的早期開發」、『新果集—慶祝林溪先生70華誕論文集』、科学出版社、2009年2月。

2) 『中国文物地図集新疆维吾尔自治区分冊』、国家文物局主編、文物出版社2012年9月；『新疆维吾尔自治区第三次全国文物普查成果集成』1-22冊、新疆维吾尔自治区文物局編、科学出版社2011年。

新疆の東部は河西回廊を通して、開発の比較的早い中原地域に繋がるため、「初期開発」と言う際、往々にして中原地域と関連すると考えられる。事実、新石器時代に限って言うと、中原地域の「文化」（例えば「仰韶文化」）の影響は周辺地域に広がり、西側（黄河上流地域）へも及んだのだが、何らかの理由により、大体河西回廊－青海湖一線まででとどまったのではないかと考えられる。河西回廊より西への影響、つまり新疆地域までの影響を証明する証拠は、今の段階ではまだないのが事実である。

新疆地域での旧石器時代文化の存在はすでに確認されている³⁾。つまり、人類が新疆に到着した時期、あるいは初期開発の時期はそれほど遅くはなかったと考えられる。また、新石器時代の遺跡（その内「細石器」がとりわけ多い）もかなり発見されており、更に本稿の検討対象である青銅器－初期鉄器時代の遺跡も数多く発見されている。しかし、この青銅器－初期鉄器時代の遺跡の中では、墓（墓地）の数が居住地（集落？）の跡をはるかに上回っている。興味深いのが、その原因はまだ分からない。

『山海経』や『穆天子伝』など中原地域の古い文献に新疆についての情報が入っているかどうかは定かではない。漢代の張騫が「鑿空」するまで（中原と新疆を塞ぐ障害を取り除き、両地の往来を可能にしたこと）、人々の新疆についての知識は皆無に等しく、あったとしても伝説の域を出なかった。この意味で、張騫のしたことは正に文字通りの「鑿空」の大事であった。しかし一方、張騫の見た新疆（西域）は間違いなく文明がかなり進んでいる社会であって、最初期の開発から文明社会ができるまでの過程についてはあまり知られていない。本稿ではこの過程を探究し、新疆地域の初期開発の実態を少しでも明らかにしようと思う。

青銅器－鉄器時代は新石器－細石器時代から継承されたということに関しては問題ないだろうが、この時代（年代）の下限ははたして何時までとすれば良いのだろうか。附表を見て分かるように、各遺跡の発見物は青銅器時代よりも遅いものも多数含まれており、戦国時代のものもあれば（例えばハーミ西坎爾孜遺跡）、周代のものもある（例えば木壘四道溝遺跡）。さらに漢代の伊吾閩臘遺跡もあれば、晋代のタシユクルガン穹托卡依遺跡及び唐代の富蘊徐永恰勒岩画も含まれている。このように表記されるのは、『文図集』及び『三普集』の資料がこのように記されているためである。遺物の年代を一つ一つ「鑑別」できるまでは、公表される資料の表記に従うべきである。加えて、中原地域は有史年代に入って久しいが、新疆地域では長い間文献記載がなく、「先史時代」のままでいたと考えられる。故に、本稿では、青銅器－初期鉄器時代の開発状況を検討する目的で、一部資料の年代が遅いとしても推論を下すのに影響がないだろうと考え、表記を年代が入れ混ざったままにする事にする。

統計によると、この時期の遺跡の数は547ヶ所がある。中では墓地が最も多く、333ヶ所あり、61%に達する。そのほか、居住遺跡が122ヶ所、約22%を占め、岩画が92ヶ所、約17%を占める。

3) 張玉忠：「新疆考古述略」、『考古』2002年第6期。

このような遺跡構成の割合について、とくに墓地の数が居住遺跡よりもはるかに多い現象については如何に理解すればよいのだろうか。一般的に、居住遺跡は集落・定住の証であり、集落の周りか内部に往々にして墓地があるはずであるが、それが発見されるかどうかはまた別問題である。しかし、それとは反対に、墓（墓地）の周りにはかならずしも集落・定住地があるわけではない。特に遊牧民族の場合、長期間に定住するどころか、死亡はいつでも起こり得るので、埋葬も所を選ばずに行われていたのではないかと推測される。そのため、墓地の数が居住遺跡よりも多いことは理解できる。しかし、この解釈は厳密とは言えない。なぜなら、同じ新疆に於いても、新石器－細石器時代では、居住遺跡よりも墓（墓地）が多い現象は見られないからだ。

墓地の数が居住遺跡よりも多いほかに、青銅器－鉄器時代の一部の墓地の規模（面積）が非常に大きいのも注目すべき所である。例えば青河県三海子墓地の面積は16.25km²もあり、アルタイ市切木爾切克石人及び石棺墓群は40km²にもなる。また、一部の墓地の使用年数が非常に長かった。一例としては、アルタイ市切木爾切克石人及び石棺墓群がそれであり、青銅器時代から唐代まで、延々と千年以上も墓地として使われてきた。さらに、一部の墓地では埋葬者の数が非常に多かった。例えば和静県察吾呼古墓群の墓数は「2000を超える」という資料がある。これらの事実から見れば、埋葬は場所を選ばずに行われていたのではなく、死者が一定の場所、すなわち超長期に機能する墓地に埋葬されていたと推測される。もしもこの推測が正しいならば、そうなる原因に二つの可能性があると思われる。一つ目は、これらの墓地の近くには元々定住集落があったが、未だに発見されていない、もしくは時を経て自然に壊れてしまったという可能性だ。もう一つの可能性は、そもそも遊牧民なので、普段牧草を追って放牧をして暮らすのだが、宗教か倫理か何かの理由で、死後は（骨を）必ず家族か所属集団の帰属する墓地に帰らさなければならなかったのではないかと考えられる。これらはあくまでも推測に過ぎず、原因はまだ突き止めていないのが現状である。

本稿は下記の複数の角度から、検討を展開していきたいと思う。

- (1) その時期の人類活動分布区域について。
- (2) 集落及び他の遺存物の立地環境について。
- (3) 集落もしくは遺跡の規模について。
- (4) 開発状態について。

では、居住遺跡－岩画－墓（墓地）の順でそれぞれ進めてみよう。

(二) 居住遺跡

居住遺跡は統計で122ヶ所がある。

(1) 分布区域

この時期は人類の居住或いは活動はほぼ新疆全域に達していた。居住遺跡は比較的にトルファン盆地の北側特にハーミ附近に集中している。その次はタリム盆地周辺及びジュンガリア（準噶爾）盆地の東側と西側に分布している。

(2) 立地環境

122ヶ所の遺跡の中で立地環境情報のあるところが64ヶ所であり、下記の数種類に分けられる。分類はそれほど厳密ではないので、「溝口」や「谷口」のような場合は台地－坂等の類にまとめた。

1. 河岸段丘類

24ヶ所があり、全遺跡の20%を占め、立地環境情報のある64ヶ所の遺跡の中では約38%を占める。

2. 野原沼類

2ヶ所ある。タシュクルガン伊勒力克蘇遺跡の「草原」とタシュクルガン穹托卡依遺跡の「沼沢」と記されるもので、全遺跡の2%を占め、立地環境情報のある64ヶ所の遺跡の中の約3%を占める。野原（草原）や沼類は新疆では多く分布するので、このような居住立地環境は比較的に多いはずだが、実際の比率は非常に低い。

3. ゴビ－砂漠類

5ヶ所ある。全遺跡の4%を占め、立地環境情報のある64ヶ所の遺跡の中で約8%を占める。ゴビ－砂漠類は野原（草原）や沼類より若干多い。

4. 台地－坂－丘陵－高地－崖類

数種類の似た立地環境を一括した呼称である。共通の特徴は山や高地－台地に位置することである。

全部で33ヶ所あり、全遺跡の27%を占め、立地環境情報のある64ヶ所の遺跡の中で約52%を占める。四種類の立地環境の中で一番多い。

(3) 規模

次は報告される面積データに基づき、遺跡の規模を検討する。

面積データのある遺跡は全部で92ヶ所あり、最も大きいものは1800万㎡にも達する(巴里坤県紅山口遺跡)。驚異的なデータなので、再三にわたって確認したが間違いはなさそうである。これは遺跡そのものの面積より、遺跡全体の範囲としてみなす方が妥当だと言えよう。この遺跡(集落?)は非常に広い活動範囲を持っていたと考えられる。

そのほかに、策勒県円沙北遺跡(群?)も面積が不思議なほど大きく報告されている。「数十ヶ所の遺跡が北東-南西方向で延べ60kmにわたる区域に分布している」という。幅のデータがなく、長さだけでは面積の計算ができないので、「60km」という長い「範囲」内に遺跡遺物が延々と分布していると理解するしかない。この事例は、新疆の青銅器-初期鉄器時代ではこのような大きい居住地あるいは集落の「群」が既にあったかもしれないと示唆してくれた。しかし、参考価値はあるが、データが不十分なので、当遺跡を本稿の附表に入れるだけにし、統計時は算入しないこととする。

次にある規模は、100万㎡以上である。100万㎡(ハーマイ市小南湖遺跡)、300万㎡(皮山県庫勒布依遺跡)及び420万㎡(吉木薩爾県劉家槽子遺跡)という3ヶ所である。

10万㎡以上、100万㎡未満の遺跡は12ヶ所がある。

1万㎡以上、10万㎡未満の遺跡は39ヶ所がある。この様な規模は域内では数が一番多く、92ヶ所の面積データのある遺跡の中で42%を占める。

また、面積1万㎡未満の遺跡は全部で36ヶ所があり、92ヶ所の面積データのある遺跡の中で39%を占める。その内の13ヶ所は、1万㎡以上1000㎡未満のものである。

上記の統計を見れば、遺跡の規模として比較的が多いのは総数の42%をも占める1万㎡から10万㎡の面積を持つものだと分かる。従ってこの様な規模がこの時期における新疆地域の集落(遺跡)の代表的な規模だと言えよう。それに更に39%を占める1万㎡未満の遺跡も足せば、10万㎡未満の中小遺跡は全体の81%にもなる。青銅器-初期鉄器時代では新疆集落(遺跡)の規模は概ねこの間にあると考えられる。

(4) 開発状態

最後に、遺物包含層の厚さ及び遺跡遺物の状況を検討する。

遺物包含層のデータがある遺跡は14ヶ所で、全体122ヶ所の中で11%を占め、最も厚いところは1-2mある(ハーマイ市伊吾県水磨河遺跡)。厚さ1m以上の遺跡は7ヶ所あり、1m未満の5ヶ所のほかに、「薄い」1ヶ所(ハーマイ市小南湖遺跡)と「比較的厚い」1ヶ所(ハーマイ市達坂托維遺跡)がある。

これらのデータをどのように読み解けばよいのだろうか。そもそも新疆の独特な環境の中では長期間の定住が難しく、残っている遺物が少ない上、数千年の歳月を経て壊れてしまっていることもよくあり、調査で発見される可能性はかなり低いと考えられる。しかし一方で、122ヶ所の遺跡及び遺物から、かなりの数の家屋や頑丈な塼などが発見されているので、比較的長期

間にわたって営まれる定住集落が存在していたと推測される。とは言え、何故残った遺物包含層は少なく、しかも薄いのか、その原因はまだ分かっていない。

では、実際の遺跡と遺物を見てみよう。

1. 石器や土器が多くの遺跡で発見され、一部では彩陶も発見されている。一つ注目すべきことは、中原地域の晋代(265-420A.D.)に相当する時期(年代)まで、新疆では石器が使用されていたと分かったことである(タシュクルガン県穹托卡依遺跡の石碗)。

2. 「青銅器-初期鉄器時代」とは称しているが、青銅器及び鉄器はそれほど多く発見されておらず、多くの遺跡では土器しか報告されていない。

発見された青銅器をまとめて見ると、鏡、鈴、錐、刀、鉤、円環、イヤリング、チャルメラなどの種類がある。また、詳細はないが「銅器発見」という一文だけの報告や、「厚さ3mの製銅の滓が大量発見」との報告も見られる(克孜里亜冶銅遺跡)。

銅鉞の遺跡が1ヶ所発見されている。「品質の高い銅鉞で、木炭より精錬」とあり、中原地域の戦国時代(475B.C.-221A.D.)に相当する時期(年代)のものであった(尼勒克県努拉賽銅鉞遺跡)。

鉄器関連については鍋、刀、矢じり、鉄器欠片、製鉄の滓などがあると報告されている。

鉄鉞は報告されていない。

3. 建物関連の報告は比較的多い。石囲い家、胴突き の 塙、土レンガの壁、方形や円形の卵石建物、石造り穴蔵、石造り建築群などがあると報告されている。

また、構造が複雑な建物が多数発見されている。例えば、「土レンガ構造で二階建て、地面より7mも高く、一階は地下道につながる」(ハーミ市艾斯克霞爾遺跡)、「巨大石造りの面積が200㎡の家、残存の壁は高さ2m、厚さが2mに達し、主寝室と付属室が別々南-北に建てられている」(巴里坤県蘭州湾子石造り遺跡)、「一組の卵石造り建物、平面は方形も長方形もカネ尺形もある」、「大石づくりの三室の半地下穴式家、円形丘状で、面積が400㎡にもなる」(ハーミ市石人子遺跡)というようなものが報告されている。さらに、巨大規模の建物も発見されている。例えば、「32室連接の石造り住居」(ハーミ市包達克遺跡)や、「多数室の石囲い造り住居40軒以上発見」(ハーミ市托万迪協烏依遺跡)、「石囲い造り住居24軒発見」(ハーミ市八木墩遺跡)、「粗石造り多数発見、方形か長方形で、最大長さ64m、幅46mの範囲になる」(和静県哈合仁石遺跡)などの報告がある。その中の巴里坤県蘭州湾子石造り遺跡について、資料は「壁の厚さは2mに達する」としており、再三にわたって確認したが間違いなさそうなので、この時期、かなりの規模を持つ建物を造れる技術がすでに高い水準に達していたと分かる。これは非常に注目されるべき点と考えられる。

このほかに、集落の内部配置が見られるような報告もある。例えば「20軒の建物は8組に分けられ、2軒か3軒で一組になり、すべて粗石で造られ、残存の壁は高さ2mほどある」(タシュクルガン阿爾沙爾遺跡)、「居住地は集中配置されており、家は一間、二間または三間とな

る」(タシユクルガン上阿克鉄列克遺跡),「粗石造りの家2,3軒で一かたまりとなる」(タシユクルガン庫英地爾遺跡),「黒白の卵石で帯状に舗装した遺跡がある。東西の長さが102m,南北の幅が91mで,20mの間隔で色が入れ替えられている。地面に直径4m,深さ0.3mの円形くぼみがあり,祭祀の跡ではないかと考えられる(タシユクルガン曲什曼遺跡)。また,「地面に造られた高さ2mの石囲いの中に,高さ5mの石柵が立ち,これらの石柵が宅地を5m平方四方のます状空間に分割し,そこに卵石が堆積されている(且末県科安遺跡),などの報告がある。

これらの情報をまとめて見れば,ある程度,集落の実態が見えてくると思われる。一家に4名の居住者で試算すると,「32室連接」あるいは同じ敷地に「40軒の家」という条件なら,100人以上の居住者がいたのではないかと考えられる。更に,同じ状況を「長さ64m,幅46m」の範囲内で考えたら,かなりの数の住民が秩序ある生活を送っていたと想像できよう。

城壁の報告も数ヶ所ある。ハーミ市焉不拉克城址は面積が3,000㎡だが,その「洞突き造りで出来た一部の城壁の基礎部の幅は約3mあり,残存壁の高さは5mになる」。また,タシユクルガン鄂加克保依城址は「城壁基礎部の周長は644mがあり,粗石と泥で築かれ,基礎部の幅は1.2mである。城壁の内外近くに10㎡くらいの円形や方形や長方形の家跡がある」とも報告されている。

総じて,この時期の新疆では石囲いの住居及び建物が多く,土造りの建物が少ないという特徴が目立つ。これは,遊牧民の遺跡が多く,定住農耕民の遺跡(集落)が少ないという新疆地域の環境特徴を如実に反映したものと考えられる。

附表一 青銅器—初期鉄器時代居住遺跡表

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(㎡)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
焉不拉克城址(ハーミ市柳樹泉農場)	黄土台地	3000		城壁は洞突き造り,基礎部幅約3m,最高5m残る。土器,石器,銅鏡,銅鈴,木器,「紡輪」等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P440,黄文弼『新疆考古發掘報告』文物出版社 1983年
白山遺跡(ハーミ市沁城郷)	砂地,戈壁砂漠	2		彩陶,磨き石,銅の錐等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P440,『新疆文物』1988年1期
闊拉勒克遺跡(ハーミ市沁城郷)	山中腹,南向き	20000		石囲い居住跡5ヶ所	青銅器時代—初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P31
頭道溝遺跡(ハーミ市天山郷)	山南坂	5000		方形か円形の卵石建築,彩陶,石器	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P440
巴什奧台克遺跡(ハーミ市天山郷)	不規則台地	21000		石造建築群,土器,石臼等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P441
達坂托維遺跡(ハーミ市天山郷)		2400	「厚い」と記述	小石積み重ね建築跡,紅陶器,石器等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P441
カ爾瑪克薩依遺跡(ハーミ市天山郷)		50000		方形か円形の石造建築,石造穴蔵,紅陶器,石杵,石鋤等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P441
小南湖遺跡(ハーミ市花園郷)	平地に流砂	100万	「薄い」と記述	紅陶と彩陶	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P441

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(m ²)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
沙棗泉遺跡(ハーミ市柳樹泉農場)	地面より0.7m, 丘	3500		石臼, 銅刀, 土器等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P441
艾斯克霞爾遺跡(ハーミ市五堡郷)		200		土レンガ建築二階建て, 二階は地面より7m, 一階は地下道に繋がる。土器, 石杵, 石球等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P441
下胡拉斯台遺跡(ハーミ市沁城郷)		3500		石造り居住跡7軒	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P17
哈拉提遺跡(ハーミ市西山郷)				石囲い円形居住跡, 石臼, 石杵, 彩陶	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集新發現巻 P16
恰坎迪勒克遺跡(ハーミ市西山郷)	白楊溝西岸台地			石囲い居住跡7軒, 紅陶, 彩陶, 石臼	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P29
烏蘭布拉克北遺跡(ハーミ市西山郷)	溝口西側台地	50000		石囲い居住跡6軒	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P15
下二崖頭遺跡(ハーミ市天山郷)	川の南岸台地	9600		石囲い居住跡大量	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P19
水亭東遺跡(ハーミ市天山郷)	山丘			石囲い居住跡大量, 紅陶	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P11
榆樹溝遺跡(ハーミ市天山郷)				石囲い居住跡大量, 土器, 石槽, 石臼	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P33
包達克遺跡(ハーミ市農十三師黃田農場南)	河西台地			石囲い居住跡32軒	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P18
博斯坦遺跡(ハーミ市農十三師八大石村)	低い山丘	55000		石囲い居住跡大量, 方形か円形。土器, 石臼等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーミ巻 P25
曼德娃艾遺跡(ハーミ市農十三師八大石村)	山坂	8976		石囲い居住跡多数, 紅陶, 石器	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集建設兵団巻 P375
托万迪協烏依遺跡(ハーミ市農十三師八大石村南)	山南側坂	16867		石囲い居住跡40軒くらい, 石臼等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集建設兵団巻 P377
巴里坤紅山口遺跡(ハーミ市巴里坤県紅山口水力発電所)	天山北麓, 山坂	約1800万		石囲い居住跡70軒, 紅陶。墓と岩画多数	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集新發現巻 P18
蘭州湾子石造り遺跡(ハーミ市巴里坤県花園郷)				巨大石造り200mあり, 残壁高2m, 厚さ2m, 主室と分室構造。土器缶高さ1m, 彩陶あり, 炭化した麦粒	青銅器時代	文図集 P453
蘭州湾子遺跡(ハーミ市巴里坤県花園郷)		1100		紅陶, 石杵, 石臼等	青銅器時代	文図集 P453
蘭州湾子西遺跡(ハーミ市巴里坤県花園郷)		2000		土器の缶鉢類, 石臼等	青銅器時代	文図集 P453
青疙瘩遺跡(ハーミ市紅山農場拱拜孜村北)	丘, 地面より高さ3m	700		土器	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P453
李家湾遺跡(ハーミ市紅山農場李家湾村)	丘, 地面より高さ3m	1300		周囲20m, 長方形石囲い居住跡, 紅陶, 彩陶, 石臼等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P453
石疙瘩遺跡(ハーミ市奎蘇鎮李家溝村)		1200		卵石造り, 残り壁高1m, 厚さ0.4m。紅陶, 石臼等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P453

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(m ²)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
南湾遺跡(ハーマイ市奎蘇鎮上南湾村)		2500		紅陶, 灰陶, 彩陶, 石臼, 石杵, 石球等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P453
卡子湖遺跡(ハーマイ市海子沿郷卡子湖村)	地面より高さ2m	8400		木炭屑, 紅陶等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P453
海子沿遺跡(ハーマイ市海子沿郷)	丘	700	0.2	木炭屑, 石球, 石杵子等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P453
西河壩沿遺跡(ハーマイ市奎蘇鎮西梁村)	土岡			土器片, 石臼, 石杵等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
総干渠遺跡(ハーマイ市奎蘇鎮西梁村)		4000		土器片, 石臼, 石杵, 石球等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
紅山遺跡(ハーマイ市紅山農場老二隊)		60000			青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
石人子遺跡(ハーマイ市石人子郷)		50万		大きい石で造った円丘状建築, 約400m ² , 半地下穴式。地面に紅陶や彩陶, 石臼等散見	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
蘇吉塘遺跡(ハーマイ市薩爾喬克郷)		600		穴あり, 紅陶片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
蘇吉塘北遺跡(ハーマイ市薩爾喬克郷)		380		紅陶片少量	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P454
葦子峽遺跡(ハーマイ市伊吾県葦子峽郷)	山坂	3500		土器の窯, 鉢, 杯等, 石臼, 石杵等	青銅器時代	文図集 P462
葦子峽北遺跡(ハーマイ市伊吾県葦子峽郷)	崖の上			卵石建築, 土器の缶と「豆」, 彩陶片, 石臼等	青銅器時代	文図集 P462
拜其爾遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)		7000		土器の缶, 石臼, 石杵等	青銅器時代	文図集 P462
薩地克庫買克遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)	溝口東側			石囲い居住跡15軒, 少量土器粗末	青銅器時代—初期鉄器時代	三普集ハーマイ巻 P71
斯外特昆余り遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)	谷	13300		石囲い居住跡12軒, 数重の石壁	青銅器時代—初期鉄器時代	三普集ハーマイ巻 P74
伊吾喀爾里克山北遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)	山北麓	680		石囲い居住跡8軒	青銅器時代—初期鉄器時代	三普集新發現巻 P25
科托果勒遺跡(ハーマイ市伊吾県塩池郷)				石造建築群, 石臼, 土器缶と「豆」	青銅器時代	文図集 P462
托背梁村南遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)	山頂平坦地	400		石造建築, 石臼, 紅陶片, 彩陶少し	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P462
闊如勒遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)		15000		石造建築1軒, 紅陶片, 石臼類	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P462
峽溝遺跡(ハーマイ市伊吾県吐葫芦郷)	谷の中部	433		石囲い居住跡4軒, 土器片と石臼	青銅器時代—初期鉄器時代	三普集ハーマイ巻 P75
塩池城址(ハーマイ市伊吾県塩池郷)				卵石造り, 残り城壁高7m, 正方形辺長75m。石球, 石臼, 彩陶少数	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P462
闊臘遺跡(ハーマイ市伊吾県塩池郷)				卵石建築1組, 方形か長方形かカネ尺形等。紅陶片採集	青銅器時代—漢代	文図集 P463

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(m ²)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
雞心疙瘩遺跡(ハーマイ市伊吾県西地鎮)	台地	30000		紅陶片と彩陶片と石臼等	青銅器時代	文図集 P471
水磨河遺跡(ハーマイ市伊吾県奇台鎮)	水磨河南西岸	40000	1-2	磨製石器多数。彩陶や銅器も。馬, 牛, 羊の骨大量	青銅器時代	文図集 P471
城泉子遺跡(ハーマイ市伊吾県半截溝鎮)		60000		磨製石器, 紅陶片	青銅器時代	文図集 P471
新戸梁遺跡(ハーマイ市伊吾県半截溝鎮)		3000	0.8	石臼, 石球, 紅陶片, 人骨, 家畜骨	青銅器時代	文図集 P471
後樑遺跡(ハーマイ市伊吾県半截溝鎮)		50000		大量磨製石器, 紅陶片, 家畜骨	青銅器時代	文図集 P471
半截溝遺跡(ハーマイ市伊吾県半截溝鎮東)	南北方向山の上		1	紅陶片, 彩陶片大量。石錘, 石斧, 石球等	青銅器時代	文図集 P471, 『考古』1981年6期
白楊河遺跡(ハーマイ市伊吾県東湾鎮)		5000		石鋤, 石臼, 石杵, 紅陶片, 彩陶片	青銅器時代-戦国時代	文図集 P471
西坎爾孜遺跡(ハーマイ市伊吾県坎爾孜郷)		10000	1	人骨, 家畜骨, 黒陶片	青銅器時代-戦国時代	文図集 P471
克爾喬瑪克遺跡(ハーマイ市大泉湾郷)	溝口	16000		長方形石囲い住居跡, 土器, 石器	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーマイ巻 P21
八木墩遺跡(ハーマイ市大泉湾郷)	溝口西側台地	15500		石囲い住居跡 24軒, 墓 10基	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集ハーマイ巻 P23
劉家槽子遺跡(昌吉吉木薩爾県二工郷)	台地	420万	1.5	「4.2平方キロ」と記述, 紅陶欠片, 石臼	青銅器時代	文図集 P473
曹家山遺跡(昌吉吉木薩爾県泉子街鎮)	繋がる三つの小山の上			石器, 土器片	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P473
小西溝遺跡(昌吉吉木薩爾県泉子街鎮)		28万		石臼, 石球, 石鋤, 石杵, 紅陶, 灰陶, 彩陶。漢代五銖錢と瓦	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P473, 『新疆文物』1992年4期
新戸遺跡(昌吉木壘県新戸郷東坎爾孜村)		10000		U字型石臼, 石杵, 紅陶等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P478
五村遺跡(昌吉木壘県新戸郷五村)		56000	1.6	穴あけ打製石器, 三角紋彩陶片, 紅陶等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P478
木壘河東遺址(昌吉木壘県城西北)	木壘河東岸台地	64000		磨製石器, 骨角器, 彩陶と紅陶等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P478
馬場窩子遺跡(昌吉木壘県英格堡郷)	小山の上			石球及び紅陶	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P478
木壘61公里原始村落遺跡(昌吉木壘県木壘鎮)		48000		紅陶缶と窯の欠片, 逆三角紋彩陶, U字型石臼等	西周-東周時代	三普集昌吉巻 P15
木壘63公里原始村落遺跡(昌吉木壘県木壘鎮)	木壘河沖積の東岸台地	25600		「南北320m, 東西80m」と記述, U字型石臼, 逆三角紋彩陶	西周-東周時代	三普集昌吉巻 P16
四道溝遺跡(昌吉木壘県城西南)	天山北麓の丘陵地	26600		「南北190m, 東西140m」と記述, 121ヶ所の柱穴, 窯跡, 灰坑, 墓等。石器, 骨器, 土器, 銅器大量	西周-東周時代	三普集昌吉巻 P17
曲惠遺跡(和碩県塔哈其郷)		15万	0.7-0.8	地面に0.2-0.3m堆積の細沙小石層, 人骨, 土器, 石器等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P502
新塔拉遺跡(和碩県蘇哈特郷)	砂地			紅陶	青銅器時代	三普集巴音郭楞巻 P90

遺跡名称 (場所)	地理環境	面積 (㎡)	遺物包含層 (m)	遺跡遺物概況	時代	資料典拠・備考
09LE3 號遺跡 (若羌県)	ロブノール北西にあるヤルダン地形			家畜糞便層, 木炭屑, 動物骨, 石鏃, 石斧, 石杵及び草の編み物	青銅器時代	三普集巴音郭楞卷 P92
瓊庫勒遺跡 (且末県瓊庫勒郷)				「2 キロ範囲内に分布」と記述, 紅陶, 石臼, 製錬銅の屑等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P515
荼滾魯克遺跡 (巴音郭楞州托格拉克勒克郷)				大量土器, 石球, 製錬鉄の屑	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P515
科安遺跡 (且末県昆其布拉克牧場科安西南)	アルチン山脈北麓, 川東岸台地	1800		南北 60m, 東西 30m, 壁高さ 2m, 中に高さ 5m, 辺長 5m の正方形石囲い建築物, その中に卵石山ある。地面に紅陶片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P515
玉姆拉克開特買遺跡 (且末県城西南)	河岸段丘	20 万		風食の土台, 土器, 石器, 鉄の刀と矢じり製錬鉄の屑等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P515, 『新疆文物』1990 年 4 期
科克蘇門遺跡 (和靜県哈爾莫墩鎮)		10000 余り	1m 余り	紅陶片, 石臼, 石球, 石杵等。直径 8m, 高さ 2m 石棺 2 基	青銅器時代	文図集 P519
哈合仁石遺跡 (和靜県哈爾莫墩鎮)	砂地, ゴビ砂漠	30 万		小石建築数軒, 平面方形か長方形, 最大規模長さ 64m, 幅 46m。石鏃, 石紡錘, 紅陶片等	青銅器時代	文図集 P519
哈布其罕遺跡 (和靜県和靜鎮)		5000 余り	0.1	「紅陶片散見」と記述	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P519
喀拉尤勒滾遺跡 (阿克蘇温宿県農一師 5 団場部)		10000	1.3	紅陶, 灰陶, 磨製石器, 骨器, 青銅輪等	青銅器時代	文図集 P528, 『新疆考古三十年』新疆人民出版社 1983 年
克孜里亜冶銅遺跡 (阿克蘇庫車県阿格郷)	台地の斜め坂	3000		地面に大量の銅製錬屑, 厚さ 3m に達し, 陶質の通風管が残っている。石臼, 紅陶の缶等	青銅器時代	文図集 P531
蘇里坦巴格遺跡 (疏附県烏帕爾郷)		20000		細石器の石核, 小型石斧, 刮削器等。銅製の装飾品, 紅陶欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P569
阿克塔拉遺跡 (疏附県烏帕爾郷)		10000		褐色の土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
果吉勒尕遺跡 (疏附県烏帕爾郷)		18 万		地面に大量の土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
康玄遺跡 (疏附県烏帕爾郷)		50000		大量の土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
科克孜貝希遺跡 (疏附県烏帕爾郷)		20 万		土器欠片が地面に散見	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
艾西亥能穆且可賽遺跡 (疏附県鉄日本郷)		35 万		土器の缶が多い	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
哈拉比謝遺跡 (疏附県鉄日本郷)		40 万		大量の土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P570
窮吐孜迪址 (英吉沙県克孜勒郷)		21 万		大量の土器欠片, 石器, 銅器, 骨器, ガラスの破片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P574
庫納協爾迪址 (英吉沙県克孜勒郷)		20000		土器欠片地面に散見, 銅器, ガラスの破片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P574

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(m ²)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
都維力克遺跡(澤普 県図呼其郷)		60000		木炭屑, 細石器, 銅器等	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P576
達合垂努斯夏合勒遺 跡(澤普県依瑪郷)				土器欠片, 人骨	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P576
鄂加克保依城址(タ シユクルガン県達布 達爾郷)	タシユクルガン 川第二台地			城壁周囲 644m, 厚さ 1.2m, 内外城壁に沿って 10m ² く らいの泥石造り住居ある	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
下阿克鉄列克遺跡 (タシユクルガン県 達布達爾郷)		30000		用水路跡あり, 10 軒くらい 家屋跡, 高さ 1.2m の壁残留	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
阿爾沙爾遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)		10000		20 軒の家屋跡, 8組に分け られ, 2-3 軒で一組, 残り 壁高さ 2m くらい	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
上阿克鉄列克遺跡 (タシユクルガン県 達布達爾郷)		30 万		一間, 二間または三間ある 住居が集中配置され, 残り の壁高さ 1m くらい, 家畜 小屋の一部残る	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
下庫英地爾遺跡(タ シユクルガン県達布 達爾郷)	川東岸台地	12500		2-3 軒で一組の家屋	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
鉄瓦托平溝口遺跡 (タシユクルガン県 達布達爾郷)	川西岸	10000		石造り家屋の跡	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
伊勒力克蘇遺跡(タ シユクルガン県達布 達爾郷)	パミール高原に ある草原	500		土器の欠片	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
庫英地爾遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)		12500		石造り家屋 2-3 軒で一組	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
上庫英地爾遺跡(タ シユクルガン県達布 達爾郷)	山坂下	300		8 軒の家屋, 残壁高さ 1-2m	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
阿依布隆遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)				石造り家屋, 高さ 1-1.5m の壁残る。地面に土器の 欠片散見	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P585
巴希安遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)		10000		家屋跡あり, 地面に土器の 欠片	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P586
奎克達希遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)				8 軒の家屋が確認され, 高 さ 1.4m の壁残る	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P586
曲什曼遺跡(タシユ クルガン県提孜那甫 郷)	タシユクルガン 川西岸三級段丘	9282		黒白の卵石で帯状に舗装 し, 東西長さ 102m, 南北 幅 91m, 20m の間隔で色 が入れ替えられる。直径 4m, 深さ 0.3m 円形くぼみ があり, 祭祀の跡では	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P586
坎爾洋將朶勒遺跡 (タシユクルガン県 班迪爾郷)	川北岸第一, 第 二段丘	5600		土レンガ造り壁長さ 100m, 幅 2.2m で残り, 高さ 1.6-2m, 16m の間隔で 5ヶ所に「馬 面」, 辺長 4m 土台ある	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P586
穹托卡依遺跡(タシ ユクルガン県達布達 爾郷)	川北岸の沼沢地	10000		家屋跡, 石の碗と鉄鍋	青銅器時代- 晋代	文図集 P586

遺跡名称(場所)	地理環境	面積(m ²)	遺物包含層(m)	遺跡遺物概況	時代	資料出典・備考
尼雅北遺跡(民豊県尼雅聚落遺跡北)				1993年と1996年の調査で家屋跡発見。石臼、石鎌、石紡錘、石球、石斧、土器缶、銅刀、銅鉤、骨珠が採集された	青銅器時代	文図集 P596
庫勒布依遺跡(皮山県科克鉄熱克郷)	溝の兩岸に分布	300万		「南北3千m, 東西1千m」と記述。石臼、石鎌、土器、銅耳飾り	青銅器時代	三普集和田卷 P142
皮山蘇呂克遺跡(皮山県科克鉄熱克郷)		39万		「東西1300m, 南北300m」と記述。石臼、土器欠片、鉄器欠片、窯跡、用水路跡	青銅器時代	三普集新發現巻 P60
円沙北遺跡(策勒県達瑪溝郷)	クリヤー川下流、タクラマカン砂漠の中	「南北60キロ範囲内に分布」と記述		「60キロ範囲内」に数十ヶ所遺跡あり。家屋跡、土器欠片多く、銅器、石器、玉器も発見	青銅器時代	三普集和田卷 P143
於田塔納伊關希遺跡(於田県奥依托格拉克郷)	両川合流地の台地	50000		地面に灰色土器欠片多数	青銅器時代	三普集新發現巻 P61
努拉賽銅鉞遺跡(尼勒克県城南)	カシュガル川南岸山坂			質高い銅鉞、木炭で製錬	戦国時代初期	三普集伊犁巻 P41
石灰梁遺跡(塔城市区文化路)	両川合流地の台地	「約1万」と記述		石柱、石球、赤色褐色土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P632
薩孜遺跡(塔城市二工鎮)	川西の台地	10000	0.5	土器、石斧、石臼、石棒等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P632
下喀浪古爾遺跡(塔城市二工鎮)	川東岸	5000		南北方向順列の土墓、U字型石臼、石柱、赤色褐色土器欠片	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P632、『新疆文物』1998年2期
裕民沙爾布拉克遺跡(裕民県吉也克郷)	沙爾布拉克河兩岸			赤色、灰色土器欠片、U字型石臼、石柱、石鏟、石矢じり、「有肩石斧」等	青銅器時代	三普集新發現巻 P65
玉吉爾鹿石(和布克賽爾県布斯屯格牧場)				太陽と円と鹿が描かれている	青銅器時代	三普集鹿石巻 P191
庫托西遺跡(額敏県阿尕什郷)	台地	900		家屋跡、土器欠片、石器欠片	青銅器時代	三普集塔城巻 P15
洪溝青銅器出土點(沙湾県南山紅溝煤礦東南)	山谷			青銅器、骨器、角器、玉器等	青銅器時代	三普集塔城巻 P34
吐爾洪鹿石(富蘊県吐爾洪郷)	山間盆地の東部			高さ0.8m、直径0.55m「鹿石」	青銅器時代	文図集 P650
巴斯克阿克喀仁鹿石(青河県阿熱勒托別郷)				長さ0.94m、幅0.46m「鹿石」	青銅器時代	文図集 P658

注:

三普集 = 新疆維吾爾自治区第三次全国文物普查成果集成

文図集 = 中国文物地図集新疆分冊

(三) 岩画

新疆では最も古い岩画は旧石器－中石器時代のもので、北部のアルタイ地区の哈巴河県多尕特で1ヶ所発見されている。

その後、新石器－細石器時代では岩画は発見されていない。

青銅器－初期鉄器時代になると、岩画は数多く発見されるようになり、92ヶ所発見された。

本稿の「初期開発」の主旨に関わる内容はこれらの岩画の分布地域であるが、非常に注目されるべきなのは岩画の発見は主に新疆東部のトルファン盆地の北側に特にハーミ地域に集中している事で、92ヶ所の中の71ヶ所はこの地域で発見された。それ以外は、ジュンガル盆地の南東側（奇台、木壘、阜康、米泉）と西部か北部（塔城、温泉、額敏、托里、青河、富蘊）、及びタリム盆地の南西側（皮山、タシュクルガン）でもそれぞれ少し発見されている。

岩画の所在地の立地環境だが、ほとんど山や山岳地帯であり、文字通り、岩石のあるところに岩画がある。

岩画の「規模」で言うと、面積のデータは5ヶ所しかなく、「遺跡遺物概況・岩画内容」欄には岩画の数くらいが数えられるのだが、両者を合わせて、ある程度の「規模」がうかがえるだろう。

岩画の内容から、ある程度の「開発状態」がうかがえると思う。動物や人物や騎馬狩猟等の場面がよく描かれ、戦争の場面も時々あり、あの時代の実生活様子が反映されていると考えられる。車両と車列の場面もあり（阜康市四工河谷内岩画）、高山や草原と砂漠の多い新疆地域では少し注目される。また、プーメラン投げの場面もあり（タシュクルガン県伊勒力克蘇村東南下阿克鉄列克岩画）、世界各地で似ている道具がそれぞれ存在しているとうかがえる。

旧石器－中石器時代の岩画は1ヶ所しか報告されていないのに対し、青銅器時代以後の岩画の報告は92ヶ所にもものぼるとは実に興味深い。実際は、報告される数よりももっと多いと推測される。しかし、新石器－細石器時代は岩画の存在が皆無のようで、1ヶ所も報告されていないのは、はたしてなぜなのだろうか。考えられるのは、新疆では岩画の出現は早く、旧石器－中石器時代にはすでに現れていたが、元々数が少ないので、1ヶ所しか発見されていないのではないかという推論である。つまり、新石器－細石器時代にも、岩画自体は依然として存在したが、発達していたとは言えず、残ったものが少ないのに加え、未だに発見されていないのではないかということである。そのため、これから発見される可能性は十分にあると考えられる。一方、青銅器時代に入ると、人々はより多く岩画の形で芸術表現をしたため、残るものは自然に多くなり、数多くのものが発見されるようになったと考えられる。もちろんこう言えるのも、アルタイ地区で発見されたこの1ヶ所の岩画の年代が、正しく判断されているという前提が必要だが。

(つづく)

附表二 青銅器—初期鉄器時代岩画表

遺跡名称 (場所)	地理環境	面積 (m ²)	遺跡遺物概況・岩画内容	時 代	資料典拠・備考
独山子岩画 (米泉市独山子村東北山坡)			26ヶ所, すべて羊	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P372
白山岩画 (ハ—ミ市沁城郷白山村南)			羊, 狼, 馬, 鷹, 豹等の動物	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P259
煥彩溝岩画 (ハ—ミ市天山郷煥彩溝内)			4枚の花崗岩にすべて山羊	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P239
頭工口子岩画 (ハ—ミ市沁城郷頭工村)	いくつかの大石壁		動物, 太陽等	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
下河村岩画 (ハ—ミ市沁城郷下河村)	花崗岩		動物等	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
安拉北岩画 (ハ—ミ市沁城郷芨芨台村)			山羊, 犬, 狩獵人物等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P258
芨芨台岩画 (ハ—ミ市沁城郷芨芨台村東)	川岸岩石		10ヶ所, 動物と人物, 山羊多い	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
庫熱勒克岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村西)	東天山南麓の坂地		45ヶ所, 羊, 犬, 狼, 騎馬狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P260
三墩岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村南)	坂地		10ヶ所, 主に羊, 人物少し	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P261
上馬崖岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村)	天山北麓の山地		7ヶ所, 山羊, 駱駝, 狼, 騎馬狩獵, 車両等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P262
小堡尖山子岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村)			2ヶ所, 山羊, 狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P264
下胡拉斯台岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村東南)			直径2-3mの巨石に獵師, 山羊, 馬等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P265
小堡南岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村南)			10ヶ所, 主に羊	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P265
折腰溝岩画 (ハ—ミ市沁城郷頭工村東北)	河原台地		20ヶ所, 山羊, 駱駝, 鹿, 馬, 虎, 狼, 人物, 狩獵, 戦争等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P266
烏魯江岩画 (ハ—ミ市沁城郷小堡村)			10ヶ所, 羊, 狼等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P268
烏拉台岩画 (ハ—ミ市烏拉台郷烏拉台村南)	花崗岩		数十ヶ所, 動物の絵多く, 騎馬狩獵, 戦争等	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
阿孜格岩画 (ハ—ミ市西山郷阿孜格村東南)	花崗岩		岩に彫刻, 鹿多い	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
白楊溝岩画 (ハ—ミ市西山郷白楊溝村南側)			岩に三人舞踊の彫刻	青銅器時代— 初期鉄器時代	文図集 P450
霍吉格爾東岩画 (ハ—ミ市西山郷塔拉提村)	河原台地		2ヶ所, 39の岩画あり, 主に羊	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P251
塔拉提岩画 (ハ—ミ市西山郷塔拉提村東)	河谷東岸の坂地		40枚の花崗岩に, 動物, 騎馬狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P252
卡拉卡依提岩画 (ハ—ミ市西山郷卡拉卡依提村北)	川谷の坂地		羊, 騎馬人物等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画 P252
杏樹溝岩画 (ハ—ミ市西山郷杏樹溝村東南)			35ヶ所, 羊食い狼, 狩獵, 舞踊, 車両, 雪花等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P253
烏蘭布拉克西北岩画 (ハ—ミ市西山郷烏蘭布拉克村西北)	ゴビ砂漠		2ヶ所, 男女, 山羊, 鹿, 狩獵図等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P254
烏蘭布拉克西南岩画 (ハ—ミ市西山郷烏蘭布拉克村西南)	ゴビ砂漠		花崗岩12ヶ所, 羊, 鹿, 駱駝, 狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P256

遺跡名称(場所)	地理環境	面積 (㎡)	遺跡遺物概況・岩画内容	時代	資料出典・備考
烏蘭布拉克北岩画(ハーミ市西山郷烏蘭布拉克村北)	溝口台地及びゴビ砂漠		48ヶ所, 羊, 狼, 豹, 駱駝等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P256
下二崖頭岩画(ハーミ市天山郷下二崖頭村西)	溝谷の岩石		10ヶ所, 山羊等動物	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
下二崖頭西南岩画(ハーミ市天山郷下二崖頭村西南)			10ヶ所, 主に動物, 人物も	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
二道溝岩画(ハーミ市天山郷二道溝村西北)			ゴビ砂漠の岩石に10ヶ所の岩画, 羊等動物, 人物も	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
水亭東岩画(ハーミ市天山郷水亭村東)	山頂		100匹の山羊, 馬, 狩猟人物等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P243
穆孜布拉克岩画(ハーミ市天山郷水亭村)			羊, 騎馬等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P244
水亭岩画(ハーミ市天山郷水亭村東南)	川谷		花崗岩に3ヶ所の岩画, すべて羊	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P244
榆樹溝岩画(ハーミ市天山郷榆樹溝村西)	三枚の岩石		10ヶ所の彫刻, 主に動物, 人物も	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
托甫塔勒岩画(ハーミ市托甫塔勒村西北)			1ヶ所, 花崗岩に幾何学模様	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
巴合烏斯台岩画(ハーミ市農十三師八大石村北)			20ヶ所くらい, 動物, 騎馬狩猟等	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
恰爾勒克岩画(ハーミ市農十三師八大石村東)	鉄木爾提峰の南山坂		2ヶ所, 羊, 犬, 騎馬狩猟	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P250
廟爾溝岩画(ハーミ市下廟爾溝村東北)	大型岩石	150万	長さ3000m, 幅500mの範囲内に彫刻あり, 羊, 狼, 武士, 舞踊, 狩猟等。ハーミ市岩画集中心地	青銅器時代-初期鉄器時代	文図集 P450
森塔斯喬克岩画(ハーミ市巴里坤県五場溝村)	森塔斯喬克山地		花崗岩10ヶ所, 羊, 犬, 馬, 騎馬等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P277
窩依加依勞岩画群(塔城市窩依加依勞村)	南北方向の岩石		山羊, 馬, 鹿, 駱駝, 生殖器等	青銅器時代	三普集塔城巻P150
烏図其岩画(ハーミ市巴里坤県海子沿郷海子沿村)	山頂		30ヶ所, 主に山羊, 鹿, 駱駝, 騎馬等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P282
八墻子岩画(ハーミ市巴里坤県八墻子郷八墻子村西北約2km)			羊, 鹿, 犬, 駱駝, 狐, 狼, 怪獣, 人物, 騎馬狩猟等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P284
烏都蘇岩画(ハーミ市巴里坤県海子沿郷海子沿村)	山地		10ヶ所余り, 主に山羊, 鹿, 狼, 符号, 騎馬, 矢を射る等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P280
克桑岩画(ハーミ市巴里坤県海子沿郷海子沿村)	低い山の頂上		10ヶ所余り, 山羊多く, 符号等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P290
加滴蘇岩画(ハーミ市巴里坤県海子沿郷海子沿村)	山地		100ヶ所, 山羊多く, 馬, 狼, 人物	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P290
五場溝岩画(ハーミ市巴里坤県五場溝村南)	坂地		10ヶ所, 山羊多く, 符号, 狩猟, 生殖器等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P278
大黒溝岩画(ハーミ市巴里坤県石人子村)	坂地		動物, 狩猟, 牧畜, 生殖器等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P288
小黒溝岩画(ハーミ市巴里坤県石人子村)			150ヶ所余り, 山羊, 鹿, 人物, 騎馬等	青銅器時代-初期鉄器時代	三普集岩画下P276

遺跡名称(場所)	地理環境	面積 (㎡)	遺跡遺物概況・岩画内容	時代	資料典拠・備考
巴里坤烏因奇岩画(ハーマミ市巴里坤県海子沿郷冬牧场)	山地		約30ヶ所, 山羊多く, 鹿, 駱駝, 騎馬等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集新發現卷 P177
阿熱孜果勒岩画(ハーマミ市柳樹溝村西)			山羊多く, 鹿, 騎馬狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P240
柳樹溝岩画(ハーマミ市柳樹溝村北)	山前谷		花崗岩5ヶ所, 羊, 鹿, 馬, 騎射等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P241
冰溝岩画(ハーマミ市巴里坤県南園子村南)	東天山北麓坡地		約100ヶ所, 羊, 馬, 駱駝, 舞獅, 狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P298
黑溝岩画(ハーマミ市天山郷黑溝村東)	川岸台地の岩石		花崗岩2ヶ所, 羊, 鹿等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P242
阿爾帕溝岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷大白楊溝村南)			11ヶ所, 鹿, 駱駝, 人物, 羊等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下P230. 三普集ハーマミ卷 P250に「大白楊溝岩画」
布熱勒克岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷泉腦村南)			花崗岩18ヶ所, 全て羊	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P231
喀爾裏克山北岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷泉腦村南)	天山北麓の山坂		羊, 騎射, 鹿等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P234
伊吾鎮南山岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷托背梁村東)	山の中		26ヶ所, 動物, 狩獵, 車輛等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P219
伊吾鎮北山岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷托背梁村北)	山の中		人物, 羊, 犬, 鹿, 矢じり等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P222
闊如勒岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷小白楊溝村北)	崖壁		山羊, 人物, 舞獅等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P235
峽溝岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷大石頭村北)	溝谷の台地		花崗岩4ヶ所, 動物	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P237
約勒頗克昆多岩画(ハーマミ市伊吾県吐葫芦郷泉腦村)			花崗岩, 羊, 牛, 鹿, 馬, 狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P238
粵海水庫岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷粵海水庫南)			黒花崗岩7ヶ所, 羊, 鹿, 狩獵等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P229
阿斯克力克岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷阿熱買勒村東北)	山坂		16ヶ所, 羊, 馬, 鹿等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P224
博然勒克岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷阿熱買勒村東)	山地		40ヶ所, 羊多く, 騎馬狩獵等	不明, 不同時期所刻画	三普集岩画下 P225
喀薩普其岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷阿熱買勒村東北)	溝谷		数十ヶ所, 羊, 馬, 鹿等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P226
科托果勒溝岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷東)	南科托果勒溝口の西側		黒花崗岩, 人物, 羊, 駱駝, 馬, 牛, 鹿等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P227
庫木達阪岩画(ハーマミ市伊吾県塩池郷阿爾通蓋村東)			岩画260ヶ所, 羊多く, 人, 馬, 鹿, 駱駝等	青銅器時代— 初期鉄器時代	三普集岩画下 P228

遺跡名称(場所)	地理環境	面積 (㎡)	遺跡遺物概況・岩画内容	時代	資料出典・備考
熱孜布拉克溝口岩画 (ハーミ市伊吾県塩池郷 阿爾通蓋村東南)			5ヶ所, 羊, 馬, 狩猟	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集岩画下 P229
康家石門子岩画(ハーミ 市伊吾県克孜勒塔斯村)		120	地面より2m高い岩壁に浮彫人物 300体以上, 裸体多く, 部分赤塗, 舞踊か性交, 狩猟, 戦争等, 「重大 発現」と記述	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P471, 『新 疆文物』1988年2 期, 三普集昌吉卷 P172
伊吾烏尊薩依岩画(ハー ミ市伊吾県喀拉烏勒村 南)	北東-南西方向の 石壁		点線彫刻と影絵図画	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集新發現卷 P176
尖甲板岩画(ハーミ市伊 吾県喀拉烏勒村西)	カ爾裏克山北麓の 山坂		黒褐色花崗岩に羊3匹	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集岩画下 P217
烏勒蓋岩画(ハーミ市伊 吾県前山郷烏勒蓋村北)	烏勒蓋山南山麓及 び山頂		羊多く, 駱駝, 騎馬狩猟等	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集岩画下 P218
烏瓦勒克岩画(ハーミ市 伊吾県前山郷奥尔布拉克 村西北)	山谷にある青色石 壁		鹿, 犬等	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集岩画下 P218
葉爾哈巴克岩画(昌吉奇 台县北塔山牧場西北)	複数の岩石		8ヶ所全て彫刻, 狩猟, 舞踊, 羊, 駱駝, 狐等	青銅器時代	文図集 P473, 『新 疆文物』1988年3 期
怪石山岩画(木壘県克孜 勒加爾塔斯村北)	台形崖		13ヶ所, 羊, 魚, 太陽, 半月, 符 号等	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集昌吉卷 P171
四工河谷内岩画(阜康市 四工河谷内)	崖下の卵石	5100	18ヶ所, 影絵図画, 太線で輪郭, 羊, 放牧, 狩猟, 舞踊, 争闘, 車 列等	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集昌吉卷 P174
石柵古墓群及阿敦喬魯岩 画群(温泉県查幹屯格鄉 吐爾根牧場)		1500		青銅器時代- 漢代	文図集 P485, 『新 疆文物』2003年1 期(附表三墓葬表 にも)
謝依坦尔岩画(タシユク ルガン県窮托喀依村東 南)	河原の大石		線刻の人の手, 鳥, 駱駝, 羊, 狼, 牛, 馬, 符号等	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P592
依孜尔勒岩画(タシユク ルガン県阿孜尔勒村)			19ヶ所鑿刻, 祭祀, 舞踊, 動物, 狩猟等	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P592
阿勒克堯勒岩画(タシユ クルガン県阿孜尔勒村東 南)			岩壁に2ヶ所, 馬, 犬, 馬引く者, 符号等	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P592
下阿克鉄列克岩画(タ シユクルガン県達布達爾 郷伊勒力克蘇村東南)			彫刻, 狩猟, プーメラン投げ等	青銅器時代- 初期鉄器時代	文図集 P592
其切克烏尼庫爾岩画(皮 山県康阿孜村南)	康阿孜河東岸岩石		7匹の大角羊, 円形, 柵等	青銅器時代	三普集和田卷 P206
克依克吐孜岩画(皮山県 闊什塔格村東南)	峡谷内		岩画, 人物, 動物, 狩猟	青銅器時代	三普集岩画下 P491
桑株岩画(皮山県烏拉其 村西南)	桑株河東岸		羊, 矢を射る人物, 騎馬, 遊牧等	青銅器時代	三普集和田卷 P203
巴什開維孜岩画(皮山県 烏拉其村西南)			動物	青銅器時代	三普集岩画下 P494
額敏哈拉喬克岩画(額敏 県農九師165团3連東北)	高さ300mの山腰		20ヶ所余り, 羊, 馬, 鹿, 狼, 牛, 駱駝, 車両, 射猟等	青銅器時代- 初期鉄器時代	三普集新發現卷 P202
喀拉也木勒岩画(額敏県 喀拉也木勒郷北)			羊, 牛, 馬, 駱駝, 狼, 狐, 鹿, 狩猟, 生殖器, 車両等	青銅器時代	三普集塔城卷 P159

遺跡名称 (場所)	地理環境	面積 (㎡)	遺跡遺物概況・岩画内容	時代	資料出典・備考
巴爾達庫爾岩画 (托裏県新地郷巴爾達庫爾)	赤色岩石		地面より50m高い、300余りの岩画、羊、牛、馬、猪、鹿、駱駝、犬、狩猟、長服のサーマン教祈禱師、多人数性交等	青銅器時代	文図集 P639
杜拉特岩画 (アルタイ市切爾克齊郷喀孜勒喀英村)			10ヶ所、陰刻絵、羊、牛、馬等	青銅器時代—初期鉄器時代	文図集 P644
布拉特溝岩画 (富蘊県布拉特溝)			山沿いに150ヶ所余りの岩画	青銅器時代	文図集 P650
唐巴勒塔斯洞窟岩画 (富蘊県庫爾特郷西)			地面より約25m高い山腰の洞窟に岩画	青銅器時代	文図集 P651
徐永恰勒岩画 (富蘊県城西沙爾布拉克村西北)			55ヶ所、全て陰刻画、動物、人物、幾何学模様	青銅器時代—唐代	文図集 P651
喇嘛布拉克岩画 (青河県查幹郭勒郷東北)			岩壁の上に陰刻画40ヶ所余り、動物、人物、放牧、騎射	青銅器時代	文図集 P658
塔特克什闊臘斯岩刻画 (吉木乃県吉木乃鎮托盤村南)	山坂岩石	30	100余り全て陰刻、動物、人物、車両等	青銅器時代	文図集 P662

注：

三普集 = 新疆维吾尔自治区第三次全国文物普查成果集成

文図集 = 中国文物地图集新疆分册

Development of the Xin Jiang area from the Bronze Age to the Early Iron Age

Miaofa WANG

Abstract

At that point, human activities had already reached the entire Xin Jiang area, mainly in the northern Turpan Basin, the vicinity of Talimu Basin and the western and eastern Dzungaria Basin. A significant number of rock paintings were found in the northern Turpan Basin, which is located in the east of Xin Jiang. The geographical environment of the archaeological remains mainly consisted of mountains (52%) and bank terraces (38%); whereas that of the graves consisted more of bank terraces (49%) than mountains (38%). This indicated that the inhabitants' preference of site-selection for "life" and "after-life" was completely opposite, however, the specific reason for this is yet to be determined. Nomadism was the main way of life and economic format in the era, with some agricultural life. Even though the era is called Bronze Age-Early Iron Age, there were not many discoveries of copper ware or ironware. There were some remains of high-quality copper mines, however, no such remains of iron mines have been discovered yet. The size of most remains was below 100,000 square meters, and the architectures were mainly composed of stone, which indicated that the architectural techniques had already reached a very high level in that era. A significant amount of seashells was also discovered, which showed the close connection of this area with the coast. The discovery of ceramic box which enclosed Buddha's bones pointed out that Buddhism already existed in people's daily life.